

ツェッペリン飛行船 観光フライト

概要

ツェッペリン飛行船の歴史は1900年にまで遡ります。もともとドイツのフェルディナント・グラフ・フォン・ツェッペリンによって設計されたこの飛行船は、第一次世界大戦後の1920年代に世界一周飛行やその他のミッションなどで最も人気がありました。しかし1937年に着陸中に飛行船LZ129ヒンデンブルク号が墜落した後、ツェッペリン飛行船の生産は中止され90年代まで再開されませんでした。1993年ツェッペリン・ルフトシフテック社は、その改良版であるツェッペリンNTを発売しました。それはオリジナルに比してはるかに小さくなり主に観光に使用されてきました。

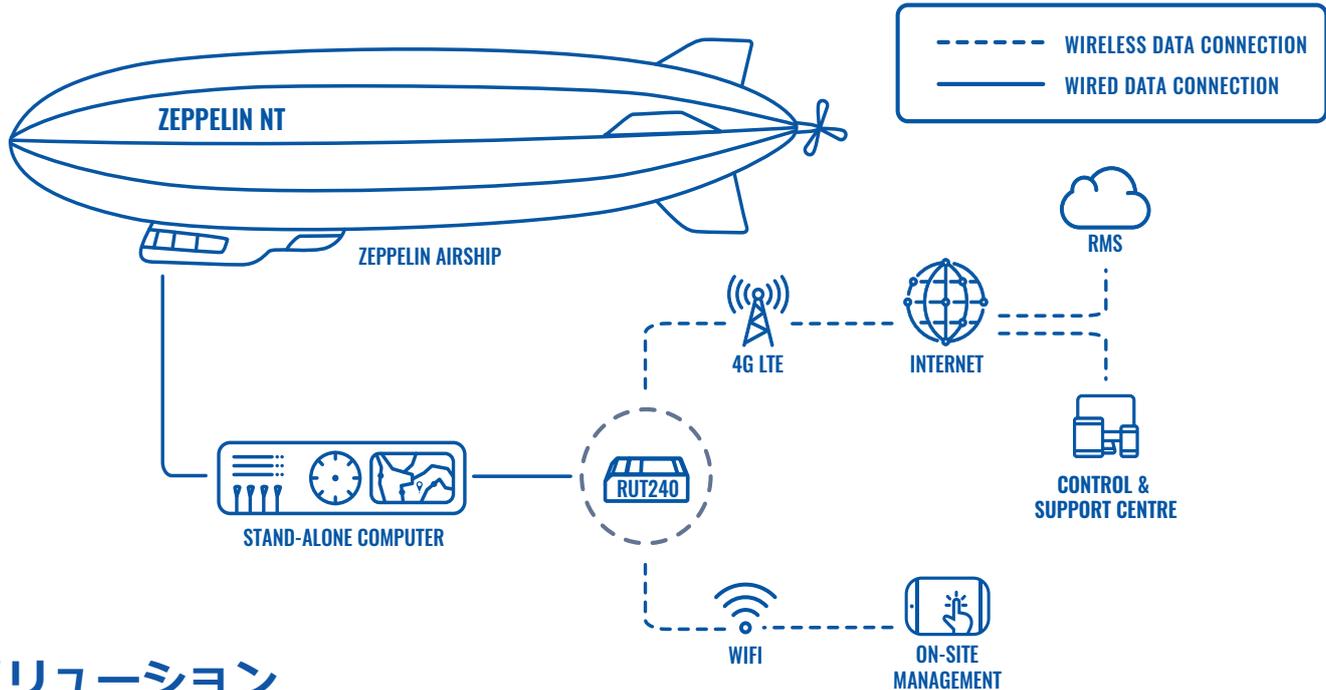
挑戦

ツェッペリンNTは、オリジナルよりもはるかに革新的で技術的に野心的な飛行船です。乗客を運ぶ際には安全性の確保が極めて重要であるため、最新のアビオニクスやグラスコックピットなど、さまざまなフライバイワイヤ制御を実装する必要がありました。地上では飛行船はEEPS-IIDスタンドアロンコンピュータによって監視および監視されます。システムが正しく機能するためには、すべての部品を接続して情報を交換するためのルータが必要でした。難しいのは、これが標準的な産業用アプリケーションではなく、過酷な屋外条件向けに設計され、そのサイズのためにスペースによって制限されたポータブルシステムであることでした。

パートナー **ZEPPELIN^{NT}** Die schönste Art zu fliegen

ツェッペリン・ルフトシフテック社は、歴史的なツェッペリン飛行船の創始者であるルフトシフスバウ・ツェッペリンの子孫会社として設立されました。同社は、歴史的な経験と現代の技術を組み合わせ、厳格な内部構造と革新的なドライブコンセプトに基づいて新しい設計コンセプトを作成しました。最高レベルの安全性と最大の快適性は、20年以上にわたりツェッペリンNTの商業運転を成功させるための基礎となっています。

トポロジー



ソリューション

ツェッペリンNT飛行船のいくつかのシステムは、それが駐機場所にあるとき、地上で制御および監視する必要があります。これは、RUT240を内蔵したEEPS-IIDスタンドアロンコンピュータシステムを採用して、制御およびサポートセンター、オンサイト管理システムおよびテルトニカのリモート管理システム（RMS）に接続することによって達成されます。

飛行船が地上クルーの監督なしに駐機場所にある場合、RUT240はコンピュータシステムによって引き起こされた誤動作またはアラームを検出した場合にSMSアラートを送信する責任があります。さらに履歴記録のためにRUT240は、コンピュータシステムのキャプチャされた内部動作データを外部FTPサーバに周期的に同期させます。

メリット

- コンパクトなサイズ：ポータブルコンピュータは、スペースと重量の要件によって制限されていたため、RUT240は小型で軽く完璧にフィットしました。
- 接続性：イーサネットポートとWi-Fiを備えた4G LTEルータは、EEPS-IIDに接続しリモートシステムやRMSへのワイヤレス接続を提供します。
- グローバル証明書：ツェッペリンNT飛行船はEUと米国で運用されているため、RUT240のグローバルバージョンが最も適切でした。
- 堅牢な耐性：金属ケーシングを備えたRUT240は、厳しい条件に適しています。

なぜテルトニカなのか？

テルトニカは、お客様のニーズに耳を傾け、お客様のニーズに合った製品を選択するお手伝いをします。ツェッペリンNTは、簡単に使用でき小型で様々なネットワーク機能を提供する製品を必要としていました。RUT240は、異なる大陸間での運用に適したグローバルバージョンも備えていたため、この場合完璧な選択でした。

